



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 480号

2015. 1. 26

発行責任者

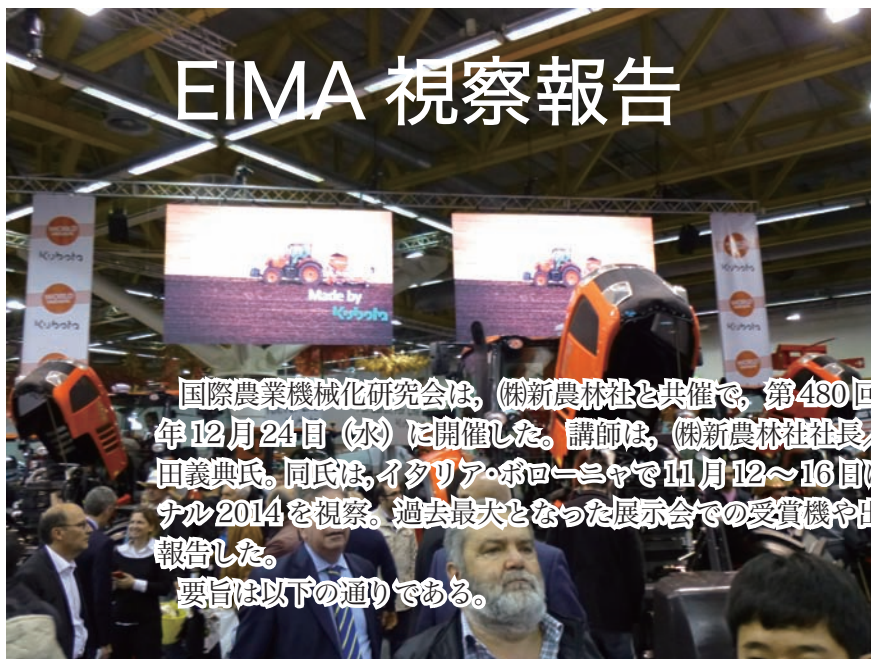
岸田義典

目次

2015

- EIMA2014 視察
(株)新農林社社長 岸田義典氏……………2
- 国別輸出入 (2014年11月)……………14
- WORLD NEWS……………19
- EVENTS CALENDER……………21

Vol. 1



(株)新農林社社長／
国際農業機械化研究会理事長
岸田義典氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第480回海外農業機械事情報告会を平成26年12月24日(水)に開催した。講師は、(株)新農林社社長／国際農業機械化研究会理事長の岸田義典氏。同氏は、イタリア・ポローニャで11月12～16日に開催されたEIMA インターナショナル2014を視察。過去最大となった展示会での受賞機や出展傾向等を、写真と資料をもとに報告した。
要旨は以下の通りである。

第41回EIMA インターナショナル2014(主催：イタリア農業機械化連盟：UNACOMA)が2014年11月12～16日の5日間、イタリアのポローニャエキシビジョンセンターで開催された。世界124カ国から23万5,600人(登録者数)を参集した。また海外からの来場者も多く3万9,000人を参集し、全体で2割以上の増加を示した。

今回30のホールに約1,800社が出展。この内、650社が海外から。日本企業も10社以上が出展した。畑作を中心に果樹や野菜、酪畜、グリーン関連など多数の機械が展示された。トラクタや自走作業機、畑作・果樹機械を中心に防除機や小物、灌水、ポンプ、農業用ソフトウェア・システム、部品、園芸用品に至るまで多岐に渡り、点数も多く、欧州に於いて日本農業との類似性を感じさせた。

開催期間中には、農業機械化の問題や農学・農業政策など150以上の会議やミーティングも行われるなど活発な議論がなされた。

クラブオブポローニャ第25回年次総会もあわせて開催され、「農業機械化～生活のためのエネルギー利用と原動力～」を主題とした講演が行われ、①農業機械の発展と人類の成長：その役割と持続可能性、②集約的な農業システム：効率性と持続可能性のための技術革新に関する欧州と北米の事例、③大規模農業システム：食料安全保障に関する技術革新に関するアフリカやアジアの事例—等の発表がなさ

れた。ほかにも、活発な議論がなされた。

一方、「欧州農業機械工業会 (CEMA)」がアグリエボリューションに関するプレスカンファレンスを開催。リチャード・マークウェル会長 (AGCO 副社長) らが出席するなかで、2014年の欧州における農業機械販売は5%ダウンする見通しを示した。EU28カ国のうち、15カ国が前年を下回るが、なかでも欧州マーケット全体の4割を占める仏独両国が全体を押し下げた。ただそういった中でも欧州農機市場は、2014年で260億ユーロとなり、米国市場の210億ユーロや中国の140億ユーロを勝るともした。

ちなみに欧州では、2014年1～9月期でトラクタが11万9,000台販売され、3万5,000台が年末までにプラスされることや、コンバインハーベスタは9,600台が年内に販売される見通しとした。

今後は所得水準や農産物価格、CAPペイメント(共通農業政策における補助金)が影響を与えるだろうとし、2015年は5～10%減少するとしたが、長期的には強含みであるとした。また世界主要12カ国と地域の工業会の会合組織であるアグリエボリューションに関する説明もなされた。

全体的に、ISOBUS利用とGPS、センサー、ICT等を組合わせた情報化技術をバーチャルターミナルでキャビン上から操作するハイテクと小回りの利く機能を盛り込み利便性を高めた機種を大企業が展示